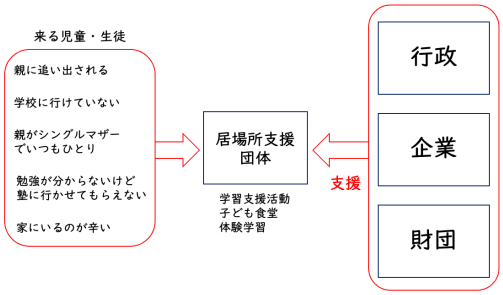
東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科　遠藤貴也

Linkuplace

居場所支援団体と企業をつなぐマッチングサービス

ビジネスモデルを考えた経緯

私は高校在学時から「家でも学校でもない第三の場所」と呼ばれている子どもの居場所に関心がある。居場所支援団体のモデルは以下のようになっている。



基本的に居場所支援団体の支援を行っているのは行政、企業、財団等となっている。しかし、支援を受けることができている団体は少数で、サポートを受けれていない団体も存在している。また、企業も支援はしたいが、居場所支援団体と繋がりがないなどの問題がある。そこで、居場所支援団体と支援活動に参加をしたい企業を繋げるためのサービスを考案した。

課題

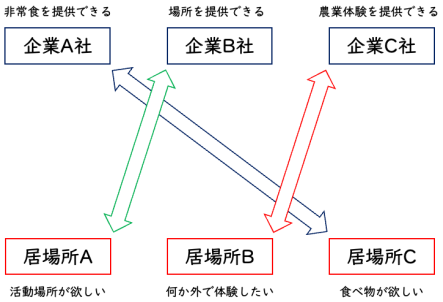
ヒアリングを実施したところ居場所支援団体、企業は以下のような悩みを持っていることが分かった。

居場所支援団体：支援に必要なものが手に入りづらい。
支援パートナーが見つからない。
} 既存団体
新規団体は立ち上げ時の実績が少なく、支援を受けにくい。

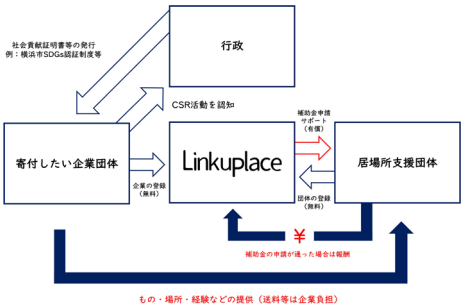
企業：支援等に参加をしてみたいが、居場所支援団体と接点がない。
何を支援して良いかが分からない。
企業の社会貢献活動を多くの人に知ってもらいたい。

ビジネスモデル

Linkuplaceを用いることによって居場所支援団体の必要としているものと、企業が提供できるものをマッチングさせることが可能となる。



今までも企業の賞味期限が迫ってきた非常食をNPO団体等に寄付をするサービスは存在していたが、場所の提供や体験を提供することができるサービスはなかった。
また、居場所支援団体が活動が継続できるように次年度の活動の計画に関するサポートを行う。居場所支援団体の実施するプログラム、イベント等のコンテンツ内容を団体の職員と一緒に考える。



このサービスを使うことによって、居場所支援団体と企業の連携を行いやすくすることができる。

2023年4月に実際に起業を検討しており、居場所支援団体・企業が抱える課題をさらに明確にしていく。
また、2023年12月までに10の団体と企業の間でマッチングを行う予定だ。